6-25　実践協力校における実践

事例㉕　横須賀市立大塚台小学校（５年・総合的な学習の時間）

「元気に 挨拶 Smile Town ～ 笑顔でつながる One Team ～」

ポイントになる主な学びのプロセス

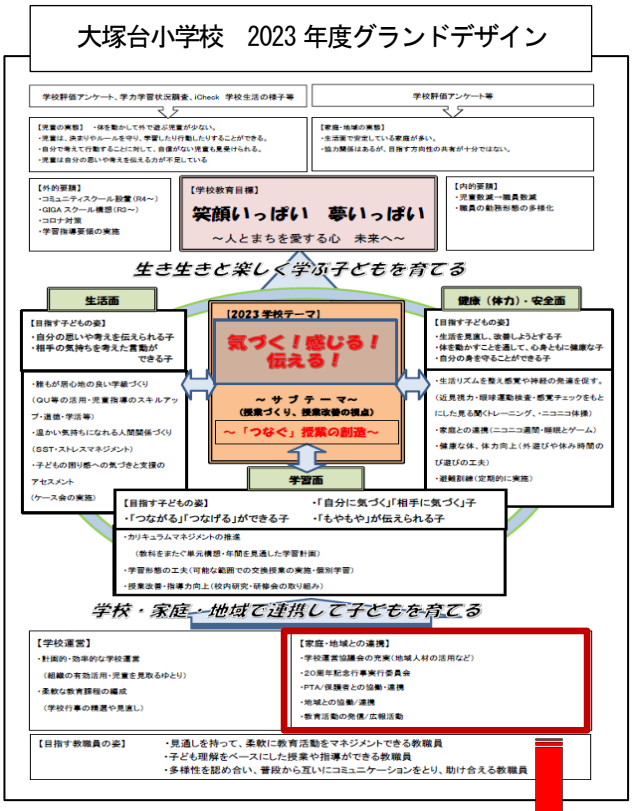
- **主体的に社会に参画する**
- **自分自身を振り返る**

Ⅰ　学校全体における取組

今年度創立 20 周年を迎える横須賀市立大塚台小学校では、学校教育目標である**「笑顔いっぱい　夢いっぱい　～人とまちを愛する心　未来へ～」**の実現を目指し、学校運営協議会である「未来向上 Smile 委員会」と連携・協働しながら、教育活動に取り組んでいる。

５年生の総合的な学習の時間では、自分達の学校が地域の方々に支えられて成り立っていることに気付き、自分達が学校や地域をよりよくするためにできることを考え実践していく中で、子どもたち達自身の成長を目指した。





【家庭・地域との連携】
- **学校運営協議会の充実（地域人材の活用など）**
- **20 周年記念行事実行委員会**
- **ＰＴＡ/保護者との協働／連携**
- **地域との協働／連携**
- **教育活動の発信／広報活動**

Ⅱ　単元のおもな流れ

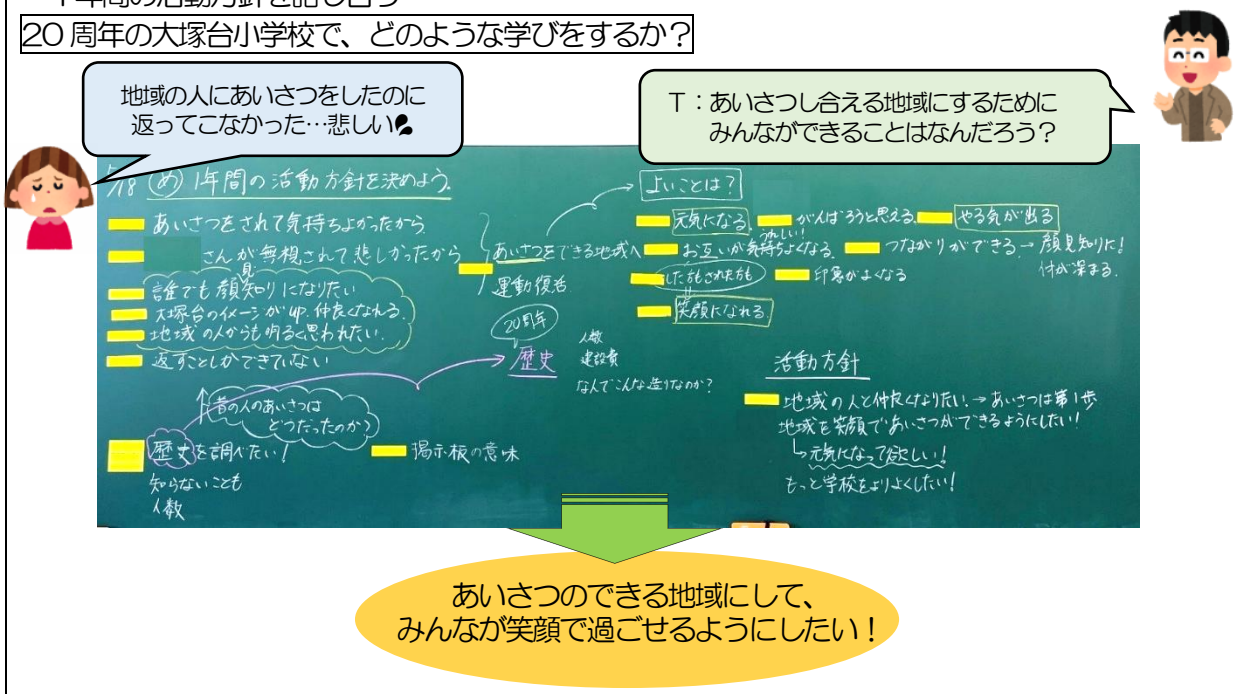
１．単元名

『　元気に　挨拶　Smile Town　～　笑顔でつながる　One Team ～』

２．単元目標

大塚台小学校の歴史を調査する活動を通して、地域の方々に支えられて学校がつくられ、地域の方々が自分たちの成長を楽しみにしていることに気付く。そして、地域をより元気に明るくするために、自分たちにできることは何か考え実践していくことを通して、自己の成長を自覚し、よりよく成長していこうという意欲をもつことができる。

Ⅲ　年間を通した学びの流れ

時期	学習課題　・活動　〇子どもの想い
4月 ～ 5月	・１年間の活動方針を話し合う 20 周年の大塚台小学校で、どのような学びをするか？ 
5月 6月	昔の大塚台小の歴史や、当時の人の想いはどんなだったのだろう？ ⇒「20 周年をお祝いする会」で、調べたことを劇にして発表しよう！  「総合的な学習の時間」の目的が決定 地域が笑顔であふれるように、地域の人と関わりを深める！  **ポイント１** **取組の方向性を相手の立場に立って考える** 子ども達がよりよい地域を目指して考えた取組だとしても、相手（地域の人達）の願いに沿っていない可能性があります。自分達の思いや願いと地域に住む人達の思いが本当に合致しているかを確認することは、子どもたちが自分の考えを再構築するきっかけとなり、合意形成を図るうえで重要なプロセスといえます。

7月

8月

9月

地域の方の想いを知るにはどうしたらいいだろうか？



89人も答えてくれたよ！

夏休み中にお祭りでアンケートをとろう！

① 小学生は、あいさつができていますか？【はい…79　いいえ…8　わからない…2】
② 小学生のあいさつは、笑顔につながっていますか？【思う…84　思わない…5】
③ 地域の人と学校は、関わった方がよいと思いますか？【はい…86　いいえ…3】
④ 私たちは地域の人と学校が関わるイベントをやりたいと思っていますが、イベントをやりたいと思いますか？【はい…82　いいえ…13？】



ほとんどプラスの意見だけど、マイナスの意見も気になるなぁ…

あいさつ運動とイベント
どちらもやって地域の笑顔を増やしていこう！

あいさつ運動

地域と関わるイベント

地域の方々も学校と関わりたいと考えているよ。

あいさつ運動をどうやって進めていこう？

イベントはどうやったら開催できるかな？

全校を巻き込んで進めていこう！



T：学校のことを地域の方と一緒に話し合う機会があるよ。



未来向上 Smile 委員会（学校運営協議会）で提案しよう！！

- 会長さんに相談したら、委員会で話をしてもいいって言ってもらえた！
- 自分たちの今までの活動をまとめ、やりたいことを提案する文書を作ろう。
- 提案って、難しい。どうやったら自分たちの想いが伝わる文章が書けるのかな？

9月　未来向上 Smile 委員会で提案！！



いつも学校を支えてくれている地域の方に感謝を伝えるため、地域と学校が交流するイベントを行いたいと考えています。

前向きにとらえていきたいので、5W1H（いつ・どこで・だれが・なにを・どのように）を整理して、企画書を作ってみてはどうですか。





大人も子どもも楽しめるイベントを企画しています。材料費や宣伝など、子どもにはできないことに力を貸していただけますか？



イベントは一日で終わってしまうので、地域の笑顔を増やすために日常で、学校や地域の中で何をすればよいか考えてみてください。

6年生も地域と関わるイベントを一緒にやることに！心強い！



やるからには、たくさんの人と協力することになるので、先生に頼るのではなく、みんなの力でやってほしい。楽しみにしています！



10月

イベント実現に向けて、具体的にどんなことをやっていかなくてはならないのか？

・６年生とともに、５W１Ｈを具体化。

〇企画書を作って、次の会議で提案したい！

★あいさつ運動の状況は？現状と今後について考えよう（本時①）

11月

11月　未来向上Smile委員会で再提案！



◆おもな企画◆
- トークタイム
- 縁日をテーマにした
  コミュニケーションブース
- 参加企業によるブース
- 県内大学鉄道部による企画

など



去年のトークタイムが印象的。
今年もぜひやってほしい。

企業には自分達で依頼しよう。

迷った時は目的に立ち返って！

大丈夫、夢は叶いますよ！

〇全員で会議に参加してみて、自分たちの想いをしっかり伝えられた！

〇委員の方に提案を認めてもらい、自信がついた！実現にむけて具体的な準備を進めよう。

・イベントのリハーサル実施

12月



本当に自分たちの目標が達成できるような活動になっているかな？

地域の方に本当に感謝の気持ちが
伝わる取組になるよう、改善しよう！

あいさつ運動の効果は出ているだろうか？

・あいさつ運動の手ごたえを話し合う。



あいさつが素晴らしい人が増えていくように、挨拶スーパーマンの取組をしよう！

集会で、あいさつの大切さやそれぞれの学年のレベルについて、まとめて伝えてみよう。



1月

目的を達成できるようにイベントを行うには、どうしたらよいだろうか？

〇イベントが近づいてきたから、より具体的に自分たちの活動を見直そう。

〇６年生にとっては、小学校生活最後のイベントだから、よりよいものにしたい。

１月２７日(土)スマイル100%ドリームフェスティバル開催！

<タイヤ交換体験>　<トークタイム>　<コンビニ体験>　<ミニ電車>



イベントの目的は達成できただろうか？

・イベントを通して、目的が達成できたか振り返る（５・６年合同、クラスの２回）



来ていた人みんなが笑顔になっていたし、ライブでは涙を流す人たちもいて、感謝の気持ちが伝わったように感じたよ。



イベント後、気が抜けてしまって大切なことを見失っているかも…



★イベントに関わってくれた方々に感謝を伝えよう。どうしたら伝わるかな？（本時②）

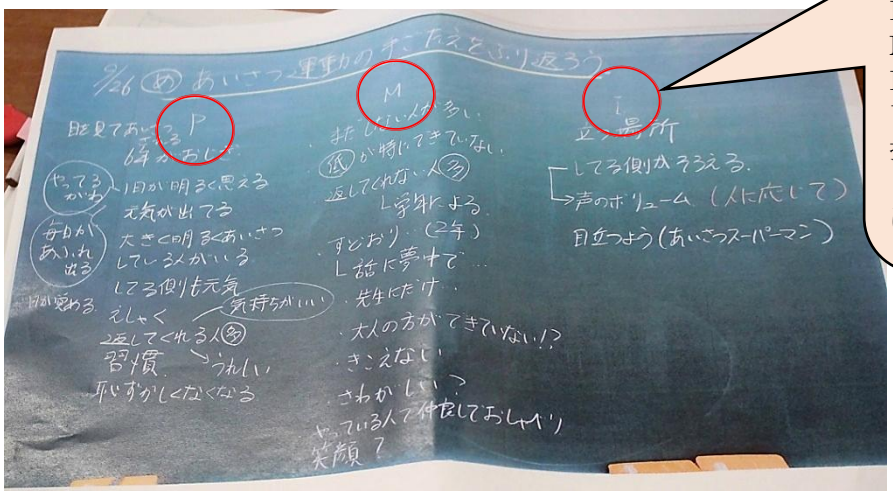
Ⅳ　授業の様子

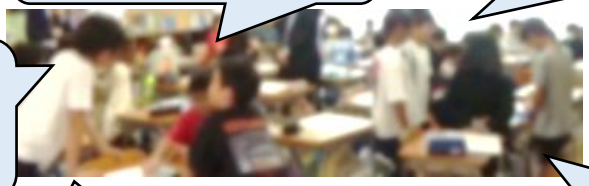
本時①「あいさつ運動の取組について考えよう」

○　本時の目標

あいさつ運動について、９月までの手ごたえをもとに、取り組み方や改善点について話し合い、考えを深めることができる。

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
導入	○前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認する。 T：前回、日常的に「あいさつ」を中心に、関わりを持つことを大切にしていくことが決まったね。では、本日のめあてを確認しましょう。	
展開① あいさつ運動の現状について話し合う。	あいさつ運動の現状を確認してみよう ○以前作成したＰＭＩ（※下図）をもとに話し合う。  あいさつ運動をしなくなったら、自分からあいさつをしようとする人が減ってしまったね。  自主的にあいさつ運動をしていたら、なんだか避けられているような気がした…。どうしたら返してくれるかなぁ。	ＰＭＩとは？ Plus（良い点）、Minus（悪い点）、Interest（興味深い点）を可視化する思考ツール。授業者は“Improvement”（改善）に変更して活用。

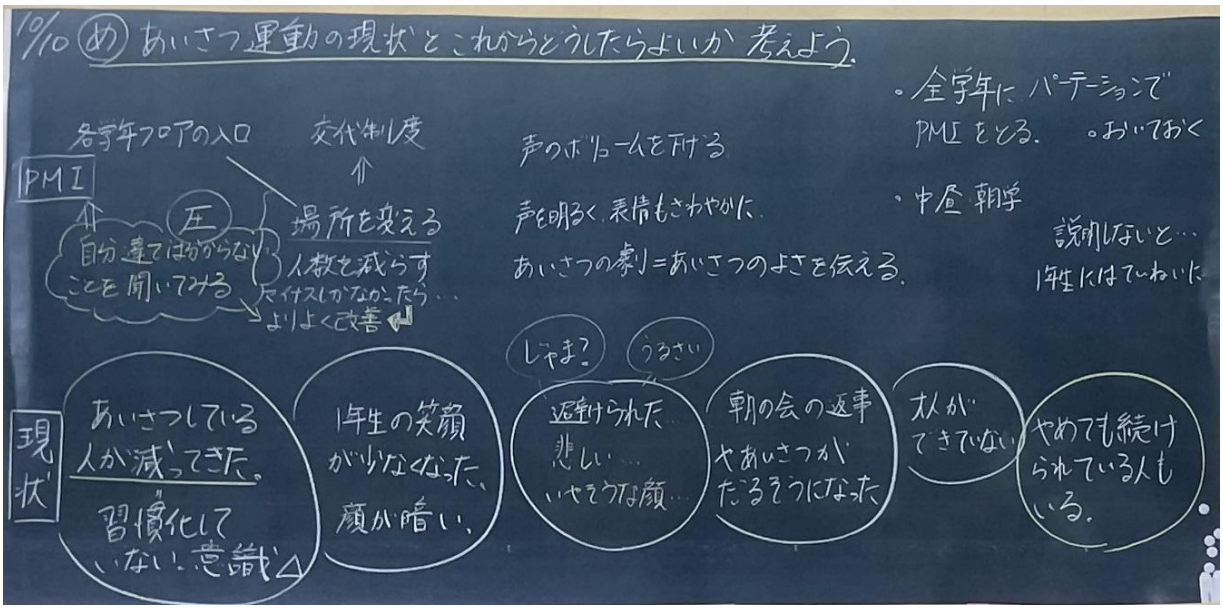
展開② あいさつ運動の方向性を話し合う。	T：現状をふまえて、あいさつ運動を これからどうしていったらよいだろう？  これからあいさつ運動をどうしていこう？ ○現状をふまえて今後の方向性について話し合う。 マイナスの意見しかなかったらどうする？ 立つ場所を変えてみるのもいいんじゃない？ 他の学年にPMIで意見を集めたらどうだろう？  そうしたら改善点を書いてもらったらどう？ 下級生は圧を感じているのかも…声のボリュームをおさえてみる？  全校でPMIを行って、他の学年から挨拶運動について意見を聞いてみよう。 賛成！自分達が気が付いてなかったプラスの面や改善点が分かるかもね。 	**ポイント2** **<u>他者の考えを聞いて、考えを再構築する</u>** 具体的な改善案について、友達の意見を参考にしながら自分の考えを構築していきます。 **目指す子どもの姿** 資料や他者の意見を参考にしながら、今後のあいさつ運動の方向性について、自分の考えを深めている。
まとめ	○学びの手ごたえをノートに記入する。	

ポイント2

児童一人ひとりが自分の考えを深めるために

１時間の授業の中で、授業者は３分程度の短い時間で、児童が話し合う場面を複数設定しました。児童はあいさつ運動の現状や今後について、お互いの意見を聞き、伝え合うことで、自身の考えを深め、再構築していきます。

また、単元の学習全体を通して、ＰＭＩという思考ツールを活用することで、解決すべき課題について児童が「Plus(良い点)」「Minus(悪い点)」「Improvement (改善)」を整理し、意見の構築に役立てました。



本時②「関わってくれた方に感謝を伝える方法を考えよう」

○　本時の目標

「スマイル100%ドリームフェスティバル」のまとめとして、協力していただいた方に感謝の気持ちを伝えるために、自分たちの成長をふり返ることができる。

○　本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
導入 展開① 感謝を伝える方法を話し合う。 展開② イベントを通して、自分たちが成長したことを話し合う。	○地域と関わるイベント終了後の自分達の生活（あいさつ運動の取組）を振り返る。 イベントに関わって下さった方々に感謝する方法を考えよう T：イベントを関わってくれた方に、どんなことをしたら感謝が伝わるかな？ 手紙を書こう！ メッセージ動画はどうかな？ お礼を言うだけじゃなくて、自分達がイベントを通して学んだことを伝えたら、もっと感謝の気持ちが伝わると思う！ T：イベントを通してみんなが学んだことって何だろう？ 自動車のエンジニアさんの技術のすごさを体感したよ！ コンビニの店員さんのおかげで人との関わり方が上手になった気がする！ T：学んだのはイベント当日だけかな？ 準備の時に6年生が声をかけてくれたから、5年生もマネして頑張ることができたと思う。 ※集団としての成長にも気付くように促す。 クラスとして成長したところはどこだろう？ ・「学びの手ごたえ」（振り返り）をたくさん書けるようになった！ ・クラスが始まった時は名前も呼べなかった人もいたけど、今はどんな人とも話ができるようになった！ ・クラスが「ONE TEAM」に近づいている気がする。	**主体的に社会に参画する** イベントの成功を支えてくれた人への感謝を伝えることで、地域とのつながりをさらに実感します。 **ポイント3** **自分自身を振り返る** あいさつ運動やイベントに向けた取組の中で感じた個人や集団としての成長を共有することで、児童が自己の成長を実感し、これからの生活に生かそうとする意識を育みます。 **目指す子どもの姿** 地域の方とのつながりを感じるとともに、取組を通しての自分達の成長を実感している。
まとめ	○学びの手ごたえをノートに記入する。	

ポイント3

社会参画の意識の涵養と自己を振り返るきっかけづくり

あいさつ運動や地域と関わるイベントの開催に向けた取組の中で、子ども達は試行錯誤しながら、どのように学校や地域をよりよくしていくかを考え、地域社会への参画の意識を育んでいきました。それと同時に、イベントを企画・運営する中で、多くの人（学校運営協議会、ＰＴＡ、地元企業、６年生…）の支えがあったことに気付き、感謝を伝える方法を考えることで地域に関わろうとする意識を高めました。

さらに、取組を通して感じた自分達の成長を話し合うことで、一人ひとりが自分自身の成長を振り返り、自分達の行動が、人に喜んでもらったり感謝されたりする経験を通して、子ども達は自己有用感を高め、また関わりたい、貢献したいと感じます。この経験の積み重ねこそが、社会参画意識の涵養につながります。

Ⅳ　研究協議

１．研究協議のテーマ

「授業において見られた児童の様子や成果から、今後の授業実践等に生かせること」

２．成果と課題

成果

・子ども達自身が自分達の取組に達成感を強く感じ、自己肯定感を高めることができた。また、活動を通じて子ども達が地域に関わりたい、自分達にできることは何か、ということを強く意識していた。
・グループでの話し合いの様子からも、話す相手を待つ姿勢、お互いの発言を認め合う姿など、年間の学級経営を通じて子ども同士の関係性の向上が見られた。
・イベントを行って終わりではなく、その振り返りを丁寧に行うことで子どもが次の活動について意識を向けることができていた。
・クラス全体で子ども同士の対話を通して議論を深めることができていた。
・子どもの思いや主体性、課題意識から本実践におけるイベントの開催につながっていったことは非常に有意義であった。特に学校運営協議会に子どもたちが参加し、学校の意思決定のプロセスに関わったことに大きな意義がある。

課題

・子ども同士に肯定的な関係性が出来つつあるからこそ、異なる視点からの意見を引き出すことや、意見の対立から合意形成を目指す経験を積むこともできると考えられる。
・実践協力校においては学校運営協議会との連携・協働により地域資源の活用がうまくなされたが、学校や地域の実状に応じて、取組の内容を精査し、地域独自の強みや連携・協働のあり方を模索する必要がある。

資料（イベント参加者の感想と振り返りの記録）

